

平成29年度 愛知学泉短期大学シラバス

| 科目番号 | 科目名 | 担当者名 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|--|------------------------------|---|---|-----|--------|---------|
| 52203 | 幼児理解 Infant Understanding | 高沢 佳司 | 専門 | 1 | 選択 | 1年 前期 |
| 科目の概要 | | | | | | |
| 幼児理解を保育の心理学の立場から理解する。保育の心理学として臨床心理学基礎に学ぶ。内容として基礎的な理論や歴史から、子ども・保護者の心の問題や行動についての理論的理解や事例を通して具体的に理解し、その対応や援助方法などについて学ぶ。また、幼稚園・保育園における気になりな園児や保護者の対応方法などの「見立て」「援助」なども具体的に学生が自ら考え、援助方法を学ぶように授業を工夫して行う。また、心理検査や発達検査などの演習も行う。 | | | | | | |
| 学修内容 | | | 到達目標 | | | |
| 1. 子どもの発達と保育実践(発達把握、個人差や発達過程、身体感覚、環境、関係作り、自己主張、自己統制、集団) 2. 生活や遊びを通した学びの過程(生活・遊びと学び、生きる力) 3. 保育における発達援助(基本的生活習慣、主体性、発達の課題、連続性と就学への支援、協働、現代社会における課題) | | | ①基本的な幼児の心の理解やそれに伴う心の問題や行動の理解を深める。 ②乳幼児の生活の経験がどう学びとして蓄積していくのかについて理解を深める。 ③幼稚園・保育園での具体的な事例を通して心理学的アプローチを習得する。 | | | |
| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | | | | |
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 調べ学習等の自発的な学習を行うことができる | | | | |
| | 働きかけ力 | | | | | |
| | 実行力 | 事例検討、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる | | | | |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 事例検討等で、事例を読み取り登場人物のニーズを把握したり、解決の手だてを把握したりすることができる | | | | |
| | 計画力 | | | | | |
| | 創造力 | 事例の解説通りではなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し支援計画を考えることができる | | | | |
| チームで働く力 | 発信力 | グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる | | | | |
| | 傾聴力 | 発表者の意見を自分の立場に置き換えて、発表者の意図を汲み取りながら聴くことができる | | | | |
| | 柔軟性 | グループ討議の際、相手の意見も取り入れながら多角的に物事を見ることができる | | | | |
| | 状況把握力 | | | | | |
| | 規律性 | 他の受講者に迷惑がかからないよう私語はしない。授業中に携帯電話を不必要に操作しない。居眠りをしない | | | | |
| | ストレスコントロール力 | | | | | |
| テキスト及び参考文献 | | | | | | |
| テキスト：沼山博・三浦主博 編 「新訂 子どもとかかわる人のための心理学 発達心理学、保育の心理学への扉」 萌文書林、※その他、プリントは適宜配布する。 参考文献：なし | | | | | | |
| 他科目との関連、資格との関連 | | | | | | |
| 他科目との関連：発達心理学、教育心理学 資格との関連：幼稚園教諭二種免許、保育士 | | | | | | |
| 学修上の助言 | | | 受講生とのルール | | | |
| 事例検討やシミュレーションを重ねることで、汎用的思考力である高次解釈(なぜ)と低次解釈(どのように)を自在に使えるようにすること。この別々の解釈水準の思考力を持つことで専門的科目の習得が容易になる。注：高次解釈、低次解釈という用語の意味は、難易度や優先順位とは無関係である。前者は物事の中心的意味(理由、目標)に関する思考であり、後者は副次的意味(手段、二次的目標)に関する思考である。 | | | 調べ学習、発表、グループワーク、相互に教え合う等の活動に代表される、アクティブラーニング形式での授業に意欲を持って参加すること。 ほぼ毎回、課題プリントが課されるため、必ず提出すること。 | | | |

【評価方法】

| 評価方法 | 評価の割合 | 到達目標 | | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント |
|------------------|-------|------|---|--|
| 筆記試験 | | | | |
| 小テスト | | | | |
| レポート | 30 | ① | ✓ | ポイント 1. 発達に関する基礎知識を獲得しているか。 2. 自身の見解を論理的な文章で論じているか。 ※30点満点の素点を評価点とする。 |
| 成果発表 (口頭・実技) | | | | |
| 作品 | | | | |
| 社会人基礎力 (学修態度) | 10 | ① | ✓ | (主体性) |
| | | ② | ✓ | ・調べ学習等の自発的な学習を行うことができる |
| | | ③ | ✓ | (実行力) |
| | | | | ・事例検討、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる (課題発見力) ・事例検討等で、事例を読み取り登場人物のニーズを把握したり、解決の手だてを把握したりすることができる (創造力) ・事例の解説通りではなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し支援計画を考えることができる (発信力) ・グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる (傾聴力) ・発言者の意見を自分の立場に置き換えて、意図を汲み取りながら聴くことができる (柔軟性) ・グループ討議の際、相手の意見も取り入れながら多角的に物事を見ることができる (規律性) ・他の受講者に迷惑がかからないよう私語はしない。また、授業中に携帯電話を不必要に操作しない ※10点満点の素点を評価点とする。 |
| その他 | 60 | ① | ✓ | ・調べ学習をプリントで行い、提出することが求められるが、提出の割合で評価する。一の位は四捨五入する。 例)13回のプリント配布のうち、10回提出・・・77%のため、46点。 |
| | | ② | ✓ | |
| | | ③ | ✓ | |
| | | | | |
| 総合評価 割合 | 100 | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベル A(優)の基準 | 到達レベル B(良)の基準 |
|---|--|
| 筆記試験・社会人基礎力(学修態度)・その他(課題)の3つの評価方法において満遍なく十分な力を発揮できればA。3つの評価方法においてほぼ、あるいは完璧に力を発揮できればK。 | 筆記試験・社会人基礎力(学修態度)・その他(課題)の3つの評価方法において十分ではないが力を発揮、もしくは2つの評価方法において十分な力を発揮できればB。2つの評価方法において十分ではないが力を発揮、もしくは1つの評価方法において十分な力を発揮できればC。 |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベル C(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|------|---|----------------------------------|--|--|----------|--------------------------------|
| 1週 / | オリエンテーション(幼児理解とは何か)、子ども理解における発達 ¹ の把握を行う(発達検査) | 講義 調べ学習 心理診断法の体験 グループ討議 | 幼児理解で何を学ぶことができるのかを理解する。アセスメントの方法や結果の解釈を通して、幼児の定型発達等を理解できる。 | (復習)配布プリントを見直す。 | 180 | 主体性 実行力 規律性 |
| 2週 / | 個人差や発達過程に応じた保育、各年齢帯での支援の留意事項を学ぶ | 講義 調べ学習 グループ討議 | 各発達段階、子どもの状態を把握し、支援計画のイメージが理解できる。 | (予習)テキスト第3章3を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 課題 発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 |
| 3週 / | 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用を学ぶ(平行遊び、連合遊び、協同遊び、アフオーダンス) | 講義 調べ学習 グループ討議 | 保育の物的環境や、人的環境としての保育者の役割が理解できる。同時に、遊びの段階の違いを理解できる。また、環境と主体との相互作用に関する、アフオーダンス理論について説明ができる。 | (予習)テキスト第3章5を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 課題 発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 |
| 4週 / | 環境としての保育者と子どもの発達を学ぶ(表象、ごっこ遊び、原因帰属、自己効力感) | 講義 調べ学習 グループ討議 | 遊びの変化、やる気を育てる支援等について理解できる。また、表象、ごっこ遊び、原因帰属、自己効力感について保育に生かすシミュレーションができる。 | (予習)テキスト第2章5、8を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 課題 発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 |
| 5週 / | 子ども相互のかかわりと関係作りを学ぶ(いざこざの原因、アタッチメント、自己主張と自己統制、道徳性、向社会行動) | 講義 調べ学習 グループ討議 | 仲間関係の発達を通して、子ども同士のトラブルへの対応方法をシミュレーションできる。またアタッチメント、自己主張、自己抑制、道徳性、向社会行動の発達について理解できる。 | (予習)テキスト第2章2~4を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 課題 発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 |
| 6週 / | 子ども集団の保育の環境を学ぶ(過剰指導 対 放任主義、自主性と自律性) | 講義 調べ学習 グループ討議 | 遊びの変化、表象、三項関係等から保育の実際について理解できる。また過剰指導と放任主義との対比から、自主性や自律性を育てる方法をシミュレーションできる。 | (復習)配布プリントを見直す。 | 180 | 主体性 実行力 規律性 |
| 7週 / | 子どもの生活と学び、養護と教育との違いを学ぶ(養護・教育、随伴性、共鳴動作、愛着関係構築) | 講義 調べ学習 グループ討議 | 養護と教育、乳幼児期の学び、愛着等から保育の実際について理解できる。また信頼関係を構築するにはどうしたらよいかシミュレーションできる。 | (予習)テキスト第3章9を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 主体性 実行力 規律性 |
| 8週 / | 子どもの遊びと学び、自由遊びと集団遊びとの違いを学ぶ(習い事、早期教育、臨界期と敏感期) | 講義 調べ学習 グループ討議 | 集団遊びやいざこざの経験、自己、心の理論等から遊びからの学びを理解できる。また早期教育、初期学習等について理解できる。 | (予習)テキスト第2章9、第3章9を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 課題 発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベル C(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|-------|---|----------------------|--|---|----------|-----------------------------------|
| 9週 / | 生涯にわたる生きる力の基礎を学ぶ | 講義 調べ学習 グループ討議 | 「生きる力」とは何か学び、自己効力感、成功体験、原因帰属等について理解できる。また、「生きる力」が、なぜ必要か、どのように保育に生かすかシミュレーションできる。 | (予習)テキスト第3章9を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 主体性 実行力 規律性 |
| 10週 / | 基本的な生活習慣の獲得、および自己の主体性の形成に関する発達援助を学ぶ(自我、アニミズム) | 講義 調べ学習 グループ討議 | 自我の発達やアニミズムを題材としながら、子どもの基本的な生活習慣や主体性を伸ばす保育についてシミュレーションできる。 | (復習)配布プリントを見直す。 | 180 | 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 |
| 11週 / | 発達の課題に応じた援助やかかわり、発達障がい、気になる子どもへの対処を学ぶ | 講義 調べ学習 グループ討議 | 発達障がいについて把握し、気になる子どもの個別の支援方法についてシミュレーションできる。 | (予習)テキスト第3章10～11を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 |
| 12週 / | 発達の連続性と就学への支援を学ぶ(小1プロブレム、思春期の問題、きょうだいのような親子) | 講義 調べ学習 グループ討議 | 発達には連続性があることを捉え、就学へいかにつなげるか、小1プロブレム等の話題から理解できる。さらに、思春期の発達まで年齢帯を拡げて長期的な就学後の発達段階を知ることができる。 | (予習)テキスト第2章10を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 |
| 13週 / | 発達援助における協働(連携・連絡)を学ぶ、事例検討を行う | 講義 調べ学習 グループ討議 | 自分の居住地の社会資源を知ることができる。また、調べた地域社会資源を参考にしながら、地域連携、保護者対応、保育者自身のストレス対処等についてシミュレーションできる。 | (予習)テキスト第3章15、第4章9を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 |
| 14週 / | 現代社会における子どもの発達と保育の課題、問題行動への対処を学ぶ | 講義 調べ学習 グループ討議 | 子どものストレス、問題行動への対処についてシミュレーションできる。また保護者の育児不安やストレスとその対処についてシミュレーションできる。 | (予習)テキスト第3章14、第4章4を読む。 (復習)配布プリントを見直す。 | 90 90 | 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 |
| 15週 / | 全体のまとめ | 講義 質疑応答 | 幼児の全般的な発達についての理解度と応用力などを確認する。 | (予習、復習)テキスト該当箇所、プリントを見直す。 | 180 | 主体性 実行力 規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力